様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 23 年 5 月 24 日現在

機関番号：34427
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008～2010
課題番号：20520627
研究課題名（和文）　前近代東アジア国際商業の担い手と広域ネットワークの形成

研究課題名（英文）Traders of International Business in East Asia and their Wide Network Formation in the Pre-modern Era

研究代表者
華　立（HUA　LI）
大阪経済法科大学・教養部・教授
研究者番号：20258081

研究成果の概要（和文）：
研究代表者華立は、18～19 世紀の日本－中国－東南アジア海域圏で活躍した中国ジャンク商人（唐船商人ともいう）について、商人集団の類型と地域性、組織構成と港町、貿易活動と清朝国家の海洋政策との関連を中心に研究した。対日貿易では官商（内務府商人）・民商の並立を経て、江（蘇）浙（江）地域の民商がしだいに主導権を握ったのに対して、洋銅（日本銅）の取引から締め出された福建商人集団は、南洋貿易政策の緩和を受けて、東南アジア方面への進出をいっそう強めたことを明らかにした。研究分担者伍躍は、沿海地域の治安および住民の海上生産活動を管理する巡検司制度を、明代福建地域を具体例として解明した。

研究成果の概要（英文）：
Li Hua, the main researcher, conducted investigations on Chinese junk-ship traders (Tousen traders) who operated in the sea area of Japan, China, and Southeast Asia during 18-19th century. She analyzed types of traders, their locality, trade organizations, ports, traders' activities, and their relation with Qing dynasty policies. She also illuminated that official and private traders engaged in trade with Japan at first but private traders of Jiangsu and Zhejiang gradually took the initiative. It is also revealed in her research that after forced out from Japanese Copper trade, trader groups of Fujian strengthened their advance toward Southeast Asia, with the Qing government's easing their restriction on trade with South Asia.
Go Yaku, co-researcher, clarified the system of Xunjiansi who supervises the security on the coastal area and production activities of local people, taking as an example the area of Fujian during Ming period.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009 年度	900,000	270,000	1,170,000
2010 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総　計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：史学・東洋史
キーワード：東アジア　清代　ジャンク商人　海域貿易

１．研究開始当初の背景

東アジア地域には、歴史的にみて、中国を中心に、朝鮮半島から日本列島・琉球列島、さらには東南アジアに至る、広範な一つの交流圏が存在した。

1990 年代より、東アジア域圏を対象とする研究が活発になり、前近代東アジアの国際商業体制およびその貿易網について、「朝貢システム」もしくは「朝貢貿易体制」のカテゴリによって捉える動きがみられる。しかしすでに一部の研究者に指摘されているように、前近代東アジア地域における国際商業の展開には、種々の要因が働いており、商業活動のあり方やその担い手の特色も、時代の変遷とともに変化していた。内陸と海域の両翼で勢力を伸ばしていった清帝国のもとで、やがて「通商の時代」と呼ばれる局面が到来するが、そのなかで、中国ジャンク商人を主役とする民間レベルの国際商業活動の拡大が、東アジア各地域間の接合を強め、広域なネットワークの発達に大きな役割を果たした。それがゆえに、前近代東アジア国際商業の全体像を捉えるには、「朝貢貿易」論に一本化するのではなく、多視角かつ動態的な考察が不可欠であった。

清代ジャンク商人の事象についてはこれまで、主に江戸期長崎貿易研究のなかで取り上げられていた。またこの種の研究は大半、近世日本の対外交渉史に視座を据えているため、貿易活動の主役である中国商人集団に対する問題意識は比較的薄い。近年、「長崎貿易」の枠組から脱却して、「清代海外貿易史」に立脚するアプローチが進展を見せているが、問題設定の視点や資料面の制限などにより、解明に至っていない問題が少なくない。とりわけ海域貿易を担うジャンク商人集団の実態に対する動態的、かつ体系を成す考察が、重要な課題となっている。

２．研究の目的

18 世紀以降の中国では、遠隔地貿易の活性化と地域ネットワークの拡大が、内陸部と海域の両方面において顕著化した。本研究は、当時東アジア海域貿易を牛耳った中国ジャンク商人（唐船商人ともいう）に着目し、彼らの成り立ちと組織の実態、その交易活動と清朝国家政策との関係について解明する。また、その上で、ジャンク商人による海域活動が前近代中国並びに東アジアの経済サイクルと広域ネットワークの形成にどのような役割を果たしたかについても考察したい。

具体的には以下の問題の解明を目指す。

(1)中国商人は当時の東アジア海域を制覇する一大勢力であったに違いないが、その様子は一枚岩ではなかった。出身地域や社会階層性の相違、加えて渡海経歴や運営形態の多様性などから、多数の集団類型に分かれているため、その実態の解明が必要である。

(2)ジャンク商人の海域活動は常に当時の政治環境・国家政策と密接に連動する関係にあった。とりわけ彼らの本拠地である中国＝清朝国家の海洋政策が彼らの活動をどのように規制し影響を与えたか、時代の変遷とともに動態的に追跡する必要がある。

(3)海域貿易の拠点である中国沿海地域の港町の研究。港町の形成、貿易施設・機関の運用、さらには物流のサイクルとともに、どのような社会的・文化的な影響が中国沿海地域

にもたらされたかについても、視野に入れて考察する。

３．研究の方法

現地調査および文献資料による検討分析作業によって行った。

(1)日本国内の江戸期諸資料、『華夷変態』、『通航一覧』、『長崎実録大成』などを利用して、17 世紀後半から 18 世紀前半にかけて長崎に来航した船主・船頭・乗組員に関する情報を抽出・集約し、データベース化した。この作業を土台に、荷主から客商、乗組員の地域性、階層性（社会身分）、運営形態、航海範囲などを分析した。

(2)18 世紀以降の航海事情や商人集団の活動に関してもっとも重要な情報源を成すのは膨大な量からなる清代档案文書である。そのため、複数回にわたって北京の第一歴史档案館と台北の故宮博物館図書文献館に赴き、資料調査・収集の上検討分析作業を行った。

(3)清代海域貿易の重要拠点であった乍浦（浙江）、厦門（福建）、台南（台湾）の地で現地調査を行い、日本国内外所蔵の清代地方志、江戸期漂流史料を活用して清代対外貿易港のあり方について解明を試みた。

(4)北京・上海・台北などで専門家と情報交換をし、多くの最新情報と研究に関する教示を得ることができた。

４．研究成果

これまで 3 年間の研究活動を通じて、以下の知見を得ることができた。

(1)1683 年（康熙 22 年）の「展海」を機に、清代ジャンク商人が重要な発展期を迎えた。中国沿海地域を中心に、北は日本長崎、南は東南アジア諸地域に至るジャンク船の航路拡大と貿易の隆盛が目覚ましい。この時期の海上貿易活動をリードするのは、依然、歴史的に航海の伝統をもつ福建商人集団だが、清朝の洋銅（日本銅）輸入方針により、対日貿易の中心地が江南沿海に移り、江南地方の商人集団（江浙商人や安徽商人からなる）、さらには内陸部の山西商人による海外貿易への参入が急速に進んだ。

(2)乾隆初期、洋銅輸入の必需性から国家の統制策が強化され、対日貿易に初めての官商・民商並立体制が立てられた。最初の洋銅官商は山西省出身の内務府商人范氏であり、一族が約四十年間その任を担ったが、任命から失脚までの経緯が必ずしも明かされておらず、誤解を招いている部分もあったため、本研究においてその軌跡をはじめて詳細に解き明かした。また范氏失脚後の官商・民商について、洋銅調達業務の主導権が主に江浙地方の民商（蘇商・浙商・徽商）によって握られ、官商の名目は咸豊初年にまで維持されたものの、実質上そのポストが民商化されつつあったことも明らかになった。

(3) ジャンク商人の貿易組織は荷主･行商・船主・乗組員からなる複層構造である。対日貿易中の官商船または民商船関連の諸資料を検証した結果、荷主・行商（船主）・船戸三者の間で長期にわたる比較的安定した運営協力関係が存在したことが判明した。乍浦港について、日本側の漂流史料を利用して現地における貿易機構の在り方や町並みの変化、物資の交流とともに江戸日本の生活風習が現地にも伝来したことなどが確認され、港町の全貌がより明らかになった。

乍浦港は対外貿易のみならず、沿海帆船貿易の重要中継地でもあることから、対外貿易と沿海貿易の継ぎ目という役割も担ったと推察される。対外貿易と沿海貿易の接点に関する研究により、清代沿海地域並びに東アジア海域圏の物流のサイクルが一層解明されてくると考えられるが、現時点において資料

不十分のため、今後の課題としたい。

(4) 乾隆以後の南洋貿易の規制緩和に伴い、洋銅取引から締め出された福建商人集団は、東南アジア方面への進出をいっそう強めた。厦門港を拠点に福建商人による南洋貿易が隆盛をみせた。その変動をうけ、ジャンク商人（少なくとも荷主レベルでは）の地域集団による一種の海域貿易の「住み分け」現象がみられた。ただし、優れた航海技術をもつ福建籍船主・乗組員たちはその後も江浙商人のもとで対日貿易を下層で支え続けたことが事実であり、また取引商品の内容からみても南洋（対東南アジア）貿易圏と東洋（対日）貿易圏の間では物流と人材の連結ルートが存在したとみられる。この問題の実態解明は(3) に挙げた課題と密な関係があり、あわせて今後の検討課題としたい。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）

①華　立「清代洋銅官商范氏一族の軌跡」『大阪経済法科大学論集』第 100 号, 53―79 頁, 2011 年, 査読なし

②伍　躍「明代の巡検司――福建の「沿海巡司」を中心に――」『大阪経済法科大学論集』第 100 号, 1－52 頁, 2011 年, 査読なし

③華　立「従日本的“唐船風説書”看康熙二十九年烏蘭布通之戦」『中国辺疆史地研究』2010 年第 3 期, 39－54 頁, 査読あり

④華　立「日本漂流民眼中的清代乍浦港」『復旦史学集刊第三輯　江南與中外交流』, 239－255, 2009 年, 査読あり

〔学会発表〕（計４件）

①華　立「従葉爾羌到蘇揚―内地商人與清代的玉石交易」中央研究院近代史研究所学術演講会, 2010 年 3 月 10 日, 台北市

②華　立「従日本的“唐船風説書”看康熙二十九年烏蘭布通之戦」『海峡両岸清代満蒙聯姻与辺疆治理学術討論会』, 中国社会科学院ほか主催, 2009 年 7 月 21 日, フフホト市

③伍　躍　「従朝鮮・日本看雍正帝的即位」中国社会史学会, 中国・中山大学主催, 2008 年 11 月 13 日, 珠海市

④華　立「日本漂流民眼中的清代乍浦港」『「江南與中外交流」国際学術討論会』、中国・復旦大学主催, 2008 年 9 月 7 日, 上海市

〔図書〕（計１件）

華立「中国文化圏としての東北アジア」『朝倉世界地理講座―大地と人間の物語―２』, 朝倉書房,2009 年,196－207 頁,査読あり

６．研究組織

(1)研究代表者
華　立（HUA　LI）
大阪経済法科大学・教養部・教授
研究者番号：20258081

(2)研究分担者
伍　躍（GO　YAKU）
大阪経済法科大学・教養部・教授
研究者番号：60351681

(3)連携研究者
なし